【授業科目】母性看護援助論Ⅱ（周産期）　Maternity Nursing Ⅱ

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
野内 香純、日比 千恵 髙塚 麻由、鈴木 茉央	３年次 前　期	必　修	２	４６	演　習	あり	巻末 掲載	可

授業概要（内容と進め方）及び課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／妊娠・分娩・産褥・新生児期における対象者の身体的、心理的、社会的変化と特徴、家族発達、看護のポイントや正常からの逸脱について講義する。妊産褥婦と新生児およびその家族への支援のために必要な知識・技術を学ぶ。事前に課題を提示し、授業日までに教科書または文献等を参考に課題についてまとめ、それらに基づき授業日にグループ間、全体で意見交換を行う。一部の演習ではオンラインで講義室と実習室をつなぎ、対象の状況を観察することで客観的視点を養うことを目的とした双方向授業を実施する。 課題に対するフィードバック方法／講義・演習において口頭でフィードバックを行う。課題レポートや演習記録においてはコメントを記載する場合もある。＊実務経験をもつ教員が授業を進める。
実務経験に関する授業内容	産科領域での実務経験を持つ教員が、周産期の女性とその家族に対するアセスメントの視点、具体的なケアの方向性、実践について、学生自身が考えられるように知識・経験をもとに講義・演習を進める。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している。
到達目標（履修者が到達すべき目標）	1. 妊娠・分娩・産褥の生理的な経過および身体的、心理的、社会的変化と適応の過程を踏まえて、その特徴と妊産褥婦に必要な看護について述べることができる。 2. 妊娠・分娩・産褥期における正常からの逸脱について述べることができる。 3. 胎児発育および新生児の生理的特徴と新生児に必要な看護について述べることができる。 4. 周産期にある対象者の情報をアセスメントし、看護計画が立案できる。 5. 周産期にある対象者に対し看護計画にもとづいた看護ケアが実践できる。
時間外学習に必要な内容・時間	第1回事前・事後学習：母性看護学概論・母性看護援助論Ⅰ・治療学Ⅳの復習をする（60分） 第2～10回事前・事後学習：指定の教科書等を参考にして予習と復習をする（各60分） 第11～16回事前・事後学習：事例の概要を読み分からないこと調べておく。臨床判断演習の展開に沿って自分なりに考えを整理し、意見交換ができるよう準備しておく（各60分） 第17～20回事前学習：DVDや動画を視聴し援助技術が実施できるように準備しておく（各60分） 第17～22回事後学習：自分がおこなった看護ケアの実践について振り返りを行う（60分） 第23回事前学習：発表の準備を行う（60分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画		
第１回	オリエンテーション、妊産褥婦と新生児の特徴を理解するために必要な基礎知識	野内
第２回	妊娠期のアセスメント視点（妊婦・胎児・家族）と看護方針	野内
第３回	妊娠期の身体的、心理・社会的特性、正常からの逸脱および家族発達と看護	野内
第４回	分娩期のアセスメント視点（産婦・胎児・家族）と看護方針	髙塚
第５回	分娩の三要素と経過、正常からの逸脱と看護	髙塚
第６回	胎児発育・新生児のアセスメント視点と看護方針	鈴木
第７回	胎児発育・新生児の生理および看護	鈴木
第８回	産褥期のアセスメント視点（産褥・新生児・家族）と看護方針	野内
第９回	産褥期の身体的・心理・社会的変化、正常からの逸脱および家族発達と看護	野内
第10回	臨床判断①GW：臨床推論・臨床判断とは，事例の概要、推論の検討	
第11回	臨床判断②GW：事例を解釈するために必要な知識、内容の検討	第11~23回 ：
第12回	臨床判断③GW：課題や状況を知るために必要な情報と情報を得るための方法の検討	野内、日比
第13回	臨床判断④：受けもちからの情報収集　検討結果の共有	髙塚、鈴木
第14回	臨床判断⑤：受けもちからの情報収集　ロールプレイ	
第15回	臨床判断⑥GW: 情報の解釈、健康課題の抽出、目標の検討	
第16回	臨床判断⑦GW: 看護計画の検討、計画を実施するために必要な知識・技術の検討	
第17～20回	看護ケアの実践：計画にもとづいた援助技術の実施/実践の振り返り	
第21回	臨床判断⑧GW：看護ケアの振り返り、ケアプラン発表	
第22回	臨床判断⑨: ケアプランの実践	
第23回	臨床判断⑩: ケアプランの実践、まとめ	

評価方法 評価基準	筆記試験（中間・期末）60%、課題等 30%、ケアプランの発表（エントリー）10%で総合的に評価する。

教科書	１．森恵美他著『系統看護学講座　母性看護学２母性看護学各論』医学書院（2年次前期　「母性看護学概論」で使用したもの） ２．石村由利子編『根拠と事故防止からみた母性看護技術』医学書院	参考書等	・有森直子編『母性看護学Ⅱ　周産期各論』医歯薬出版株式会社 ・『病気がみえるvol.10　産科』メディックメディア

学生への助言等	・母性看護援助論Ⅱは母性看護学実習を進める上で直接関連する科目です。これまで学習した科目との関連を意識しながら、各自積極的に学習に参加することを求めます。知識は暗記するのではなく、その知識をどのように使うかということに　視点をおいて、学習を進めてください。 ・授業では、20 分以上の遅刻および途中離席、無断早退は欠席とみなします。